

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】平成 17 年 11 月 24 日 (2005.11.24)

【公表番号】特表 2002-510220 (P2002-510220A)
【公表日】平成 14 年 4 月 2 日 (2002.4.2)
【出願番号】特願 平 10-546341
【国際特許分類第 7 版】
A 6 1 F 2/06
【F I】
A 6 1 F 2/06

【手続補正書】
【提出日】平成 17 年 4 月 11 日 (2005.4.11)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】補正の内容のとおり
【補正方法】変更
【補正の内容】

手続補正書 (自発)

平成17年 4月11日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第546341号

2. 補正をする者

名 称 アーテミス・メディカル・インコーポレイテッド

3. 代 理 人

住 所 東京都千代田区霞が関三丁目7番1号

大 東 ビ ル 7 階

氏 名 (6647)弁理士 田 澤 博 昭

電話 03(3591)5095番

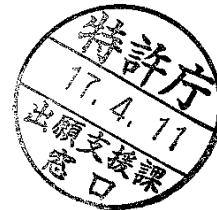


4. 補 正 の 対 象

明細書の請求の範囲の欄

5. 補 正 の 内 容

明細書の請求の範囲を別紙の通り補正する。



6. 添付書類の目録

補正後の請求の範囲を記載した書面 . . . 1 通

以 上



請求の範囲：

1. 体内の管腔から粒子を除去するためのフィルター装置であって、
近端部と遠端部を持つ筒状部材を有する第1の長手部材と、
近端部と遠端部を持ち、前記第1の長手部材の筒状部材に対して移動可能なように結合された第2の長手部材と、
遠端部が前記第2の長手部材の遠端部と取り付けられ、近端部が前記第1の長手部材の遠端部に取り付けられた編成筒状構造体であって、この編成筒状構造体の遠端部は近端部よりも低い多孔度を有するフィルター装置。
2. 前記第1の長手部材の周りに配置されたステントをさらに備え、このステントは近位部、中間部及び遠位部を有する編成筒状構造体を備え、この中間部はこれらの遠位部と近位部の一方よりも大きい隙間を有する請求項1の装置。
3. 前記編成筒状構造体の近傍に多孔性の膜をさらに備えた請求項1の装置。
4. 前記多孔性の膜は前記編成筒状構造体よりも小さい隙間を有する請求項3の装置。
5. 前記多孔性の膜は弾性膜である請求項3の装置。
6. 近位部、中間部及び遠位部を有する拡張可能な編成筒状体を備えた主血管及と分岐血管の分岐点で用いるステントであって、前記中間部はこれらの遠位部と近位部の一方よりも大きい隙間を有するステント。
7. 前記拡張可能な編成筒状体は内部拡張力により拡張可能である請求項6のステント。
8. 前記内部拡張力は膨張可能バルーンである請求項7のステント。
9. 前記拡張可能な編成筒状体は自己拡張力により拡張可能である請求項6のステント。

10. 前記拡張可能な編成筒状体は形状記憶合金である請求項6のステント。
11. 前記拡張可能な編成筒状体は、タンタル、ウール、ナイロン、ポリエチレン、ポリエステル、ステンレス鋼合金、チタン及びPTFEから成るグループから選択される請求項6のステント。
12. 前記拡張可能な編成筒状体は繊維布によってコーティングされている請求項6のステント。
13. 前記拡張可能な編成筒状体に連携した薬剤をさらに備えた請求項6のステント。
14. 拡張可能な螺旋状の筒状構造体に巻回する平坦材を備えた、主血管及と分岐血管の分岐点で用いるステントであって、この平坦材は複数の窓を有し、これらの窓は前記拡張可能な螺旋状の筒状構造体に所定の直線上に配列されているステント。
15. 前記窓は、前記拡張可能な螺旋状の筒状構造体の片側に配列されている請求項14のステント。
16. 前記窓は、前記拡張可能な螺旋状の筒状構造体の周囲を囲むように配列されている請求項14のステント。
17. 前記平坦材は形状記憶合金である請求項14のステント。